

がん患者サロン Luana（ルアナ）

薬物療法について



市立岸和田市民病院

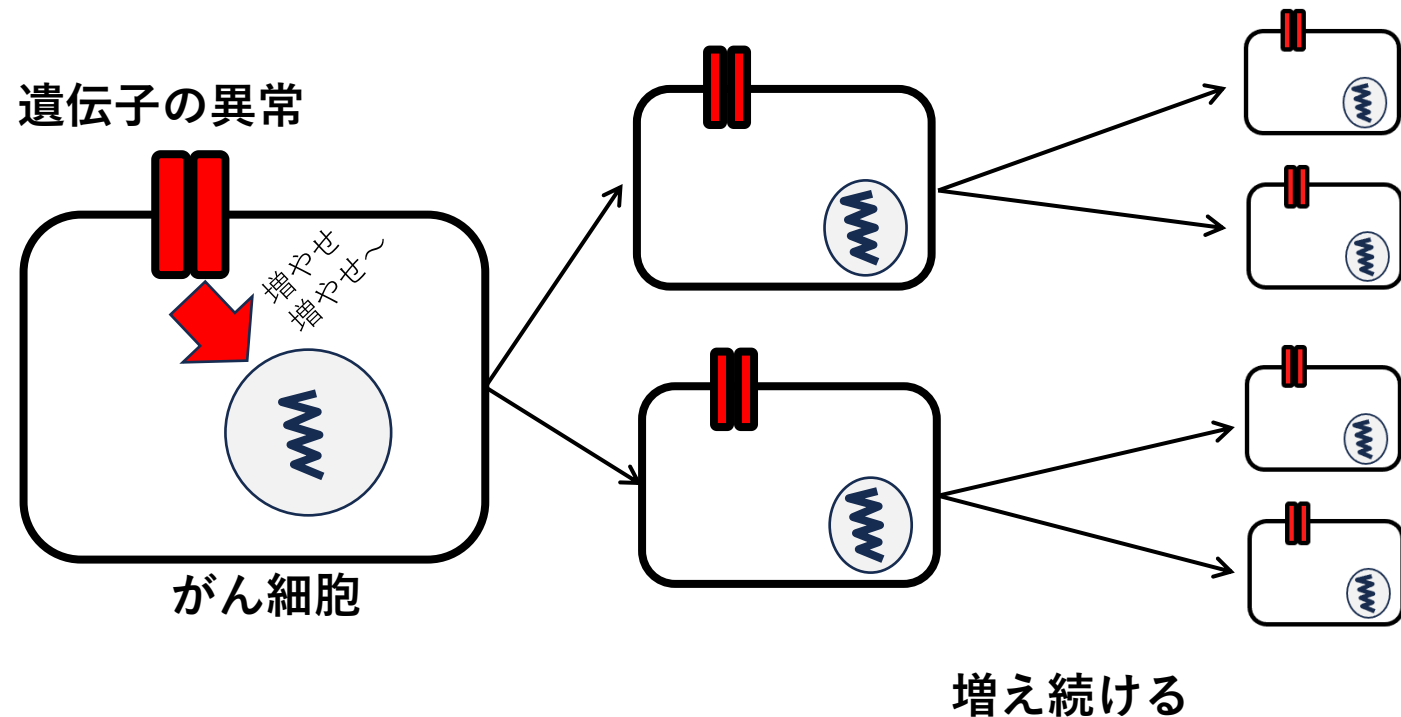
令和8年9月

腫瘍内科 川中雄介



がんは、細胞が増え続ける病気です

正常な細胞は、必要なときに増え、役目が終わると止まります。
一方、がん細胞は遺伝子の変化などにより、この「止まる仕組み」が働きにくくなり、**細胞が増え続けて、かたまり（腫瘍）になります。**



がんの3つの特徴

■ 増え続ける

必要がなくても、細胞が増え続けることがあります

■ 周りへ広がる（浸潤）

近くの組織に、しみ込むように広がります

■ 離れた場所へ移る（転移）

血液やリンパの流れによって、別の場所へ移ることがあります

治療は組み合わせて行います

■ 手術

がんを取り除く治療です



■ 放射線治療

放射線を当てて、がん細胞を死滅させます

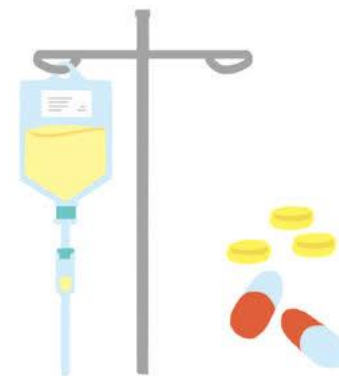


■ 薬物療法

薬を全身に届け、がんを小さくしたり進行を抑えたりします

■ 緩和ケア

痛みやつらさを和らげます。治療中も一緒に受けられます



薬物療法には3つの目的があります

■ 治すことを目指す

基本的には手術・放射線と組み合わせます

■ 再発を防ぐ・減らす

手術の前後に行い、見えないがん細胞にも働きかけます

■ 進行を抑え、症状を和らげる

がんと付き合いながら、生活を保つことを目指します

薬の働き方は大きく4種類です

■ 抗がん剤（細胞障害性抗がん薬）

細胞が増える仕組みに働きます

■ 分子標的薬

がんの増殖に関わる「目印」を狙います

■ 免疫療法

自分の免疫が、がんを攻撃しやすくします

■ ホルモン療法

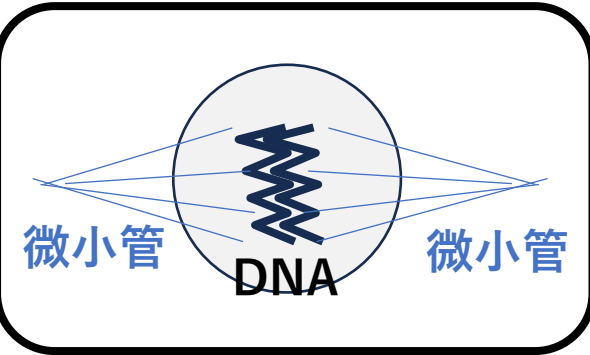
がんの増殖を助けるホルモンの働きを弱めます

作用機序について

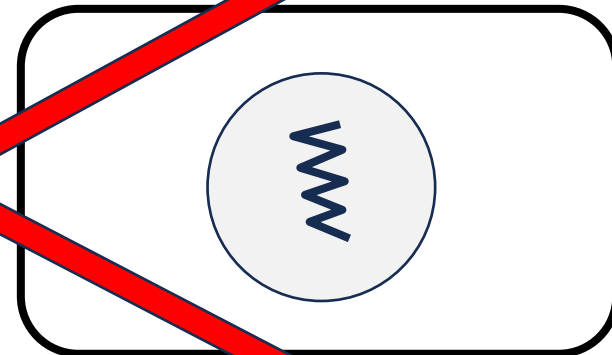
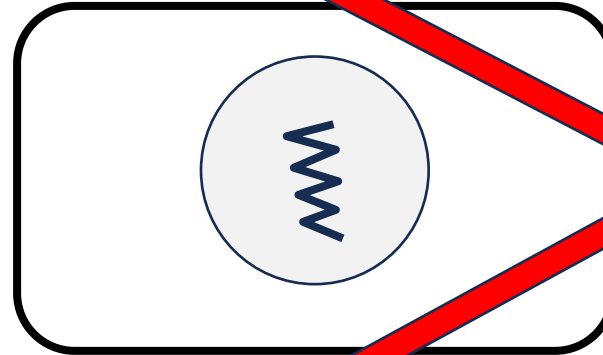
抗がん剤は、細胞分裂に働きます

- アルキル化薬
- 代謝拮抗薬
- 白金製剤
- トポイソメラーゼ阻害薬
- 微小管阻害薬
- 抗腫瘍性抗生物質

様々な過程に作用



細胞が増える



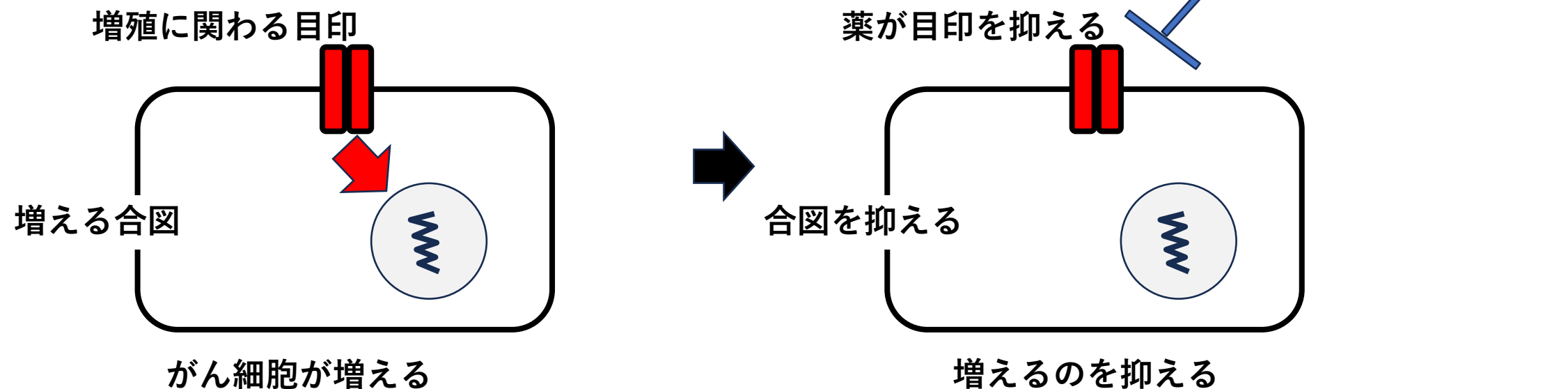
がん細胞が増えにくくなります

分子標的薬は「目印」を狙います

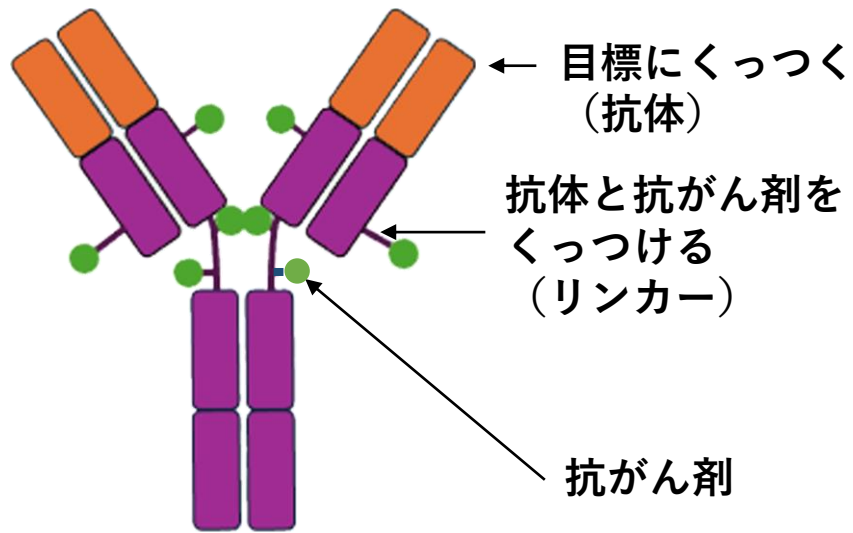
がんの増殖に関わる遺伝子やたんぱく質を調べ、

薬が合う「目印」があるときに使います。

薬を選ぶために、遺伝子検査を行うことがあります。

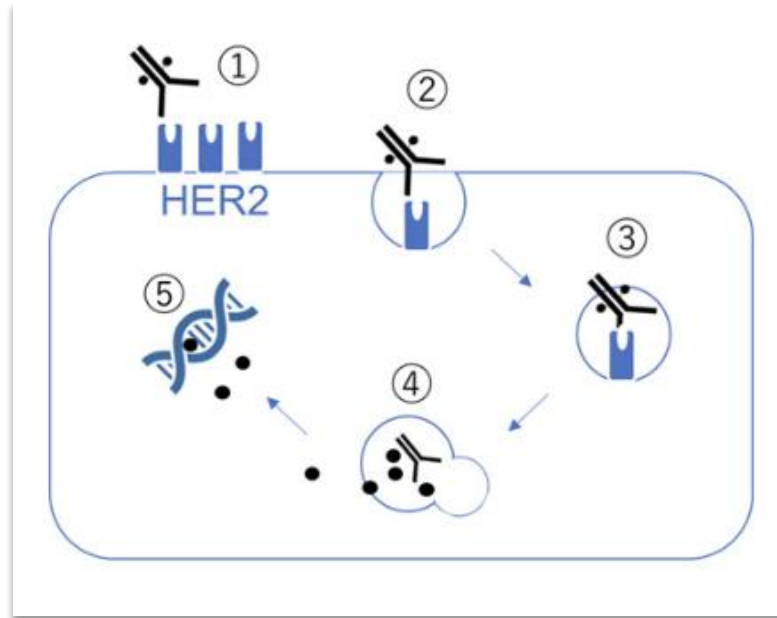


分子標的薬は「目印」を狙います



エンハーツ

分子標的薬
抗体薬物複合体

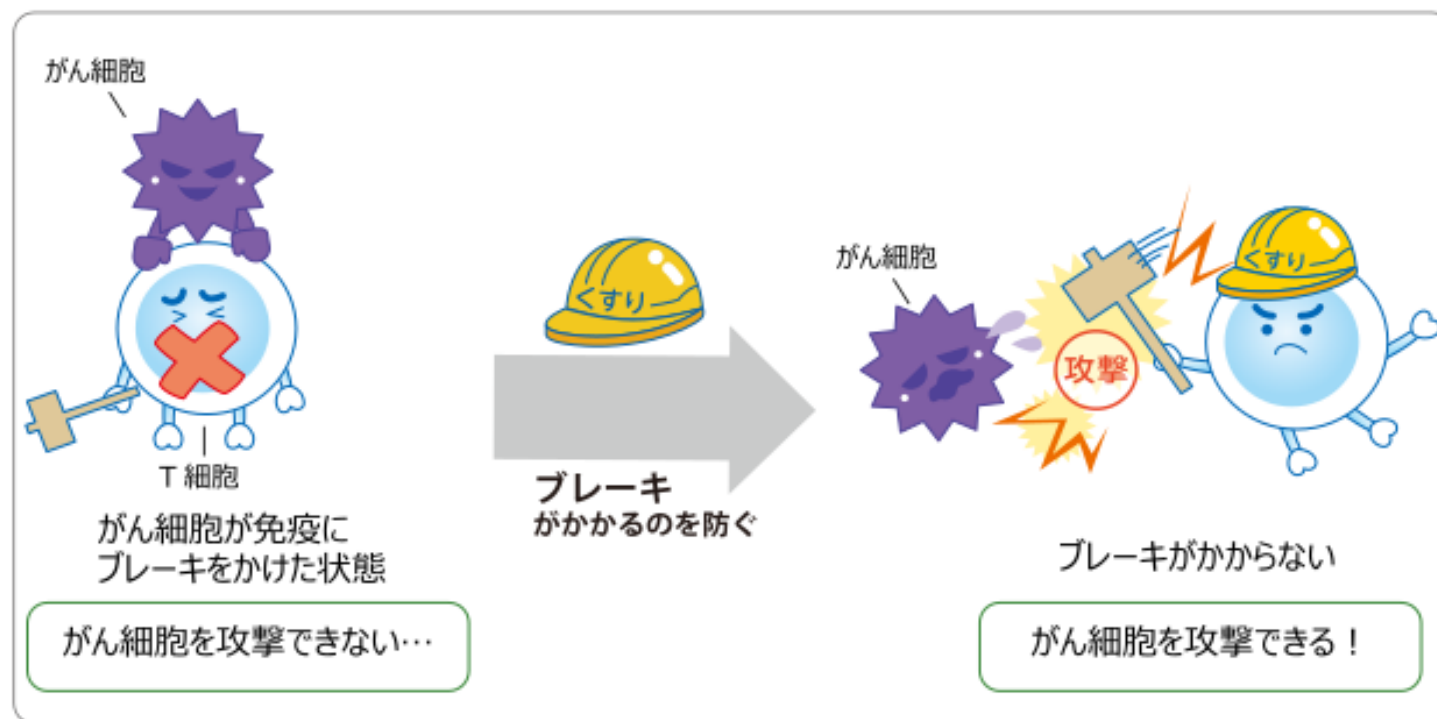


- ① 目印にくっつく
- ② 細胞の中に運ばれる
- ③ 抗がん剤を分解するところに運ばれる
- ④ 抗がん剤成分が分解される
- ⑤ DNAが障害され癌細胞が死滅する

免疫療法は「ブレーキ」を外します

■ 免疫チェックポイント阻害薬

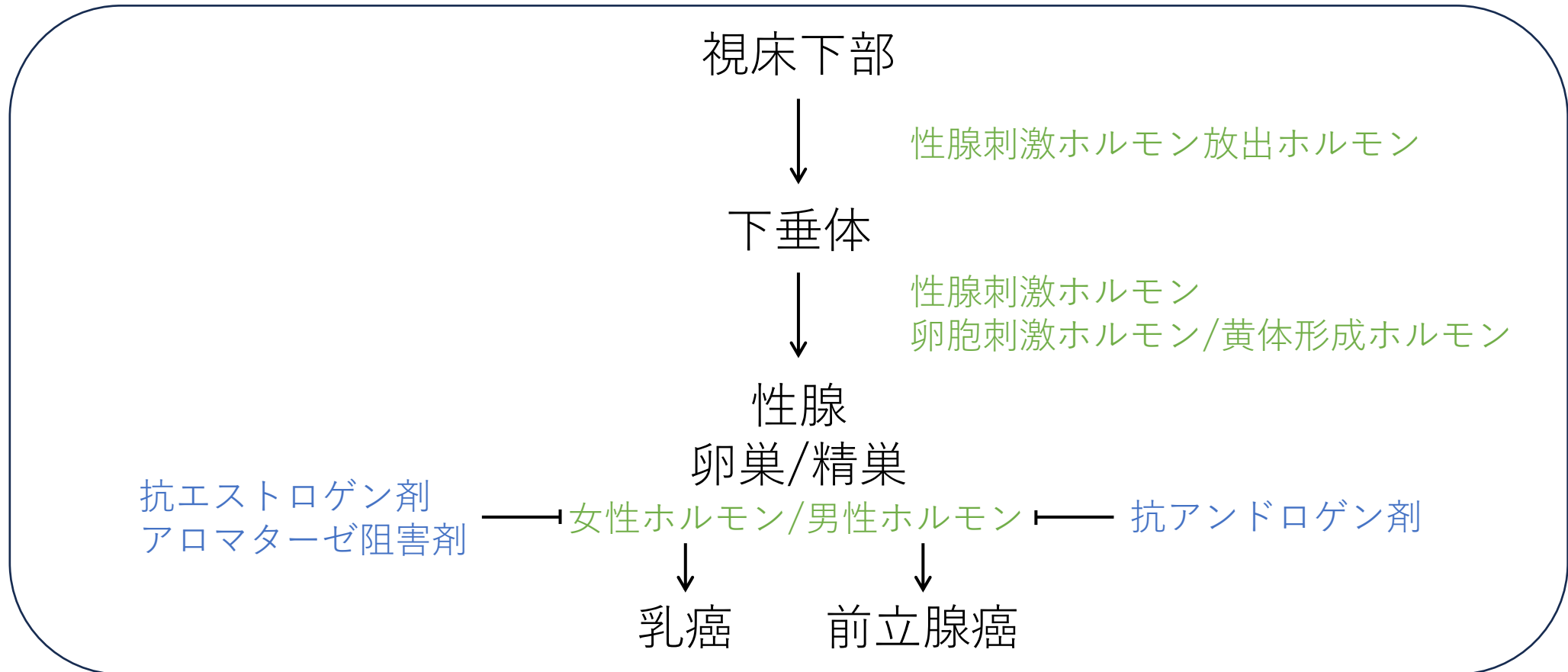
がんが免疫にかけるブレーキを外し、免疫細胞により癌を攻撃します。



ホルモン療法は、増殖の信号を弱めます

乳がんや前立腺がんなど、ホルモンを利用して増えるがんに使います。

ホルモンを「作りにくくする」「働きにくくする」ことで、**がんの増殖を抑えます**。



副作用について

■細胞障害性の抗がん剤

細胞分裂が活発な細胞にダメージが多い

（脱毛、皮膚障害、粘膜障害（嘔気・嘔吐・下痢）、血球減少）。
神経障害、心臓障害など特徴的な副作用を有する薬剤もある。

■分子標的薬

標的分子により異なる。皮疹、肝障害、心毒性、下痢、低マグネシウム血症、過敏症など様々。

■ホルモン療法

乳がんではホットフラッシュ（のぼせ・ほてり・発汗）、生殖器の症状、血栓症、骨粗しょう症、前立腺がんでは女性化乳房、ホットフラッシュ、性欲低下、勃起障害、肝機能障害など。

■免疫療法

免疫細胞の暴走により色々な種類が起こりうる。

治療は、一人ひとりに合わせます

- がんの種類・広がり・遺伝子の特徴・体の状態に合わせて、
薬や治療の組み合わせを選びます。
- 効果と副作用を確認しながら、
薬の量や間隔、組み合わせを調整します。

・ わからないことは、何度でも聞いてください
・ 大切にしたい生活や希望も、医療スタッフにお話してください